

# 書きことばにおける *es gibt* 存在表現の使用

— コーパス調査を手がかりにして —<sup>1</sup>

大 喜 祐 太

**要旨：**本研究の目的は、ドイツ語コーパス（COSMAS II および CCDB）中の書きことばにおける存在表現の用法を考察することである。はじめに、コーパスを使用して *geben* を用いた存在表現 *es gibt* 構文に関する分析を行い、さらに、副詞句や対格名詞句の性質、*es gibt* 構文を用いた文中の語順について吟味した。その際、*es gibt* 構文の頻出共起語彙を観察し、用例を見ていくと、実際の言語使用では、しばしば *es gibt* の典型的な用例であるとされる実在文よりも、限量的存在表現やリマインダー的表現、未来的存在表現としての *es gibt* の使用が多いということを確認できた。

## 1. はじめに

本稿では、コーパスを通じて、実際のテキストの中で存在表現がどのように用いられているのかを考察したい。その際、対象とする実際のテキストとは、ドイツ語の「書きことば」であり、新聞や雑誌といったものに加えて、小説などの文学作品も含む。Meibauer *et al.* (2015: 1-3) によれば、基本的には「書きことば」とは、文字を基礎にしており、他方「話しことば」は音声に基づいている。とはいえ、Koch & Oesterreicher (1985: 15-16) でも、書きことばと話しことばとの境界の曖昧さについて指摘している通り、書きことばであっても、たとえば SMS のような口語性が高い媒体を使用する場合、話しことばに近い特徴を捉えることができる。それに対して、話しことばでも、テレビのニュース番組や講演などでは、書きことばの特徴を多く備えていると考えられる。

ドイツ語のコーパスとして最も汎用性が高いのは、マンハイムにある IDS (Institut für deutsche Sprache) の COSMAS II である。このコーパスは、公的な性質の強い文章だけでなく、講話やインタビュー (Reden und Interviews) といった話しことばに比較的近い文章も含んでいる。また、本稿では、COSMAS II に加えて、IDS の Cyril Belica 氏が監修する「共起表現データバンク」(CCDB: Kookkurrenzdatenbank) も利用した。

## 2. 書きことば：コーパス調査

本稿で考察対象とするドイツ語存在表現の研究には、英語の存在表現との比較を通じてドイツ語存在表現を通時的に分析した Pfenninger (2009) がある。また、日本語の文献では、最上 (1987) があり、LOC 前置（場所格前置）のような語順や、非人称の *es* の挿入に関する議論を前提にしてドイツ語存在表現を考察しており、非人称の *es gibt* 構文の議論が中心となる。*es gibt* の先行研究には、Newman (1997)、Czinger (2002)、西脇 (2012) などがあり、文学作品中の非人称構文 *es gab* の対格名詞句の特徴を調べた湯浅 (2008) もある。

## 2.1 コーパス調査 (1) : CCDB

はじめに、CCDBを利用して、*es gibt* 構文と共起する語彙を調査した<sup>2</sup>。本調査では、動詞 „geben“ (Eng. give) を選択し、geben が *es gibt* 構文として使用されている用例を抽出したうえで、他の語彙との共起関係を調べた<sup>3</sup>。

表1 : *es gibt* 構文と共起する語

	共起語彙	構文使用例	共起数
1	eine	<i>Es gibt [es ...] eine ...</i>	2827
2	keine	<i>Es gibt [es ...] keine ...</i>	2775
3	auch	<i>... gibt [es ...] auch ...</i>	2771
4	noch	<i>... gibt [es ...] noch ...</i>	2185
5	einen	<i>... gibt [es ...] einen ...</i>	1816
6	in	<i>In der ... gibt es ...</i>	1340
7	keinen	<i>Es gibt [es ...] keinen ...</i>	973
8	viele	<i>Es gibt [es ...] viele ...</i>	816
9	da	<i>Da [...] gibt es ...</i>	474
10	außerdem	<i>Außerdem [...] gibt es...</i>	221

表1の通り、*es gibt* と最も頻繁に共起するのは、不定冠詞の **eine** である。その中でも、とりわけ、用例(1)中の「かなりの数の」(*eine Reihe von...*) や(2)の「たくさん」(*eine Menge (von)...*) という表現との共起が多い。

(1) *Es gibt immer noch **eine** ganze Reihe von Leute, die ...*

“There are still a whole lot of people who ...”

(2) *Es gibt aber **eine** Menge reizvolle Musik für ...*

“There is a lot of delightful music for ...”

さらに、5番目の **einen** と合わせると、不定の新情報を導入するために *es gibt* が使用されることが多いことが推測される。

(3) *Eigentlich **gibt es** nur noch **einen** Schauspieler, der ...*

“Actually, there is just an actor who ...”

加えて、否定詞 **kein** (*keine, keinen*) との共起もしばしば確認でき、不可能性を表現するための構文として使用されやすいことがわかる。特に、(4)のように、**keine Alternative** とともに使用されることが多く、新聞などで、それ以上の議論の余地がないということの表現として用いられる。また、(5)のように「…以上に…なものは存在しない」(*es gibt kein(e)... als...*) といった定型的な言い回しもしばしば用いられる。7番目に挙げられている **keinen** について、「いかなる理由もない」(*keinen Grund*)、「いかなる疑念もない」(*keinen Zweifel*)、「いかなるきっかけもない」(*keinen Anlass*) などといった表現は、*es gibt* と頻繁に共起する。

- (4) Zum Dialog *gibt es keine* Alternative.  
“There is no alternative for the dialog.”
- (5) *Es gibt keine* bessere Erfahrung als ...  
“There is not better experience then ...”

さらに、コーパス調査から明らかになったのは、*es gibt* 構文には、定型的言い回しが複数存在するということである。たとえば、以下のような例である。

- (6) **Für** Besucher *gibt es* umfangreiche Parkmöglichkeiten.  
“There are extensive possibilities of parking lot for visitor.”
- (7) **Seit** gestern *gibt es* wieder Big Macs in Fülle.  
“There is Big Macs in plenty since yesterday again.”
- (8) **Neben** interessanten Vorträgen *gibt es* auch eine Produktpräsentation.  
“Addition to interesting presentations, there are also a presentation of products.”

(6) のように「…にとって…がある」(*für... gibt es...*) や (7) の「…以来、…がある」(*seit... gibt es...*)、(8) の「…に加えて、…がある」(*neben... gibt es...*) といった言い回しは、慣用的表現としてよく使用される。特に注目したいのは、前置詞 **neben** との共起である。「…のとなり」のように、空間的前置詞として使用されることの多い **neben** だが、*es gibt* 構文とともに用いられる場合には、空間的意味を伴わない「付加」の意味に限定されており、対格名詞句にも具体的な人物・事物などの名詞が出現することは稀である。言い換えれば、*sein* 動詞をはじめ、所在動詞の *liegen* や *stehen* で表現されるような「所在文」(たとえば、*neben dem Bett ist/liegt eine Lampe* 「ベッドの隣にランプがある」のような表現) は、**neben** と *es gibt* の共起の際には見られないということである。

不定冠詞を伴う表現や否定詞と並んで、共起表現としてよく観察できるのは **auch** である。たとえば、「もちろん…もあるが、しかし…」(*natürlich gibt es auch..., aber...*) のような表現や、先に示した (8) のような **neben** とともに用いられることが多い。 **auch** に加えて **noch** も *es gibt* と一緒に使われる語である。(10) の「依然として」(*immer noch*)、(11) の「今まで一度もない」(*noch nie*) といったものは、定型表現となっている。特に (11) については、過去を示す表現 „*es gab...*“ もしくは „*es hat... gegeben*“ とともに用いられることがコーパス上でも観察できる。

- (9) *Es gibt noch* viele andere Situationen...  
“There are many more other situations...”
- (10) *Es gibt hier immer noch* kein Wasser...  
“There is still no water here...”
- (11) Das *gab es* bisher **noch nie** in Venedig.  
“It has never been in Venice.”

6 番目の „*in*“ は、(12) や (13) のように、*es gibt* 構文内の実主語が占める空間を制限するものである。とはいえ、この „*in*“ は、(14) のように、「この夏」(*in diesem Sommer*) や「今年」

(in diesem Jahr)、「今春」(in diesem Herbst)といった時間的副詞句の形でもよく使用されることがわかった。

(12) In Deutschland *gibt es* insgesamt mehr als 6000 Museen.

“In Germany, there are more than 6000 museums in total.”

(13) In diesem Bereich *gibt es* 500 verschiedene Marken.

“In these areas, there are 500 different markets.”

(14) In diesem Sommer *gibt es* etwas ganz Neues.

“In this summer, there will be something new.”

9番目の „da“ についても、場所的副詞句として用いられるだけではなく、文脈指示的である場合も少なくない。以下の(15)の中の *da* は、「わたしたちが危険な戦いをしていたところ」を指している。

(15) Wenn ich an die Tage vom 1. bis 5. August denke, wo wir im schwersten Kampf gestanden sind, **da gab es** Tag und Nacht keine Ruhe. (BAS)

“When I think of the days from 1. to 5. August, where we stood in the toughest fight, there was no rest day and night.”

このような空間直示詞と関連して、井口(2000: 32)では、*da*の文脈指示用法について、つぎの例を挙げている。

(16) Na ja, und sie wohnen alle in einem Hotel am Meer, das dort ‘Öresund’ heißt. Und auch **da gibt’s** einen berühmten Rummelplatz. (井口 2000: 32)

“Well, and they all live in a hotel by the sea, which is called ‘Öresund’ there. And there’s also a famous fairground.”

(16)の *da* が指すのは、文脈から特定されるホテルのある場所である。さらに、井口(2000: 33)では、現実の場所も、その前の文脈の中の場所も指し示さない *da* について、つぎの(17)のような用例を通じて考察している。

(17) A: Ich bin auch ein Idiotenweib, daß ich ausgerechnet jetzt davon anfang. Verzeih mir!

B: **Da gibt’s** nichts zu verzeihen. Ich habe doch Angst. (井口 2000: 33)

“A: I am a female idiot too, I start to know that just now. Excuse me! B: There’s nothing to forgive. But I am afraid.”

(17)の *da* は、井口(2000: 33)によれば「話し手や聞き手、または両者に関係する空間を指す」としたうえで「いわば、話し手と聞き手が世界を共有していることが表現される」と解釈している。こうした *da* としばしば共起するのが *es gibt* 構文であり、当構文がまさにコミュニケーション的用法として使用されやすいことを示唆している。

外部照応的な *hier* や *dort* と共起しないことに加えて、*es gibt* はつぎの (18) のような場面でも用いられることはない。*es gibt* 構文は、外部照応的な場所的副詞句と共起しないために、眼前描写的な表現としても使用できないと考えられる。

(18) (眼の前にある雪山の写真を見ながら)

?Auf dem Berg *gibt es* viel Schnee.

“There is a lot of snow on the mountain.” (intended reading)

*es gibt* の頻出用法の一つに限量的存在表現がある<sup>4</sup>。コーパス調査を通じて、*ein* だけでなく、「多くの」(*viele*) や「二つの」(*zwei*)、「三つの」(*drei*) といった数量詞と *es gibt* の共起が頻出することが明らかになったことは、そうした *es gibt* の特徴的な用法の存在を裏付けている。

(19) Im Kindergarten *gibt es* so **viele** tolle Spielsachen.

“In the kindergarten, there are so many great toys.”

また、こうした数量詞を伴う名詞句については、(19) のような具体的な名詞句だけでなく、(20) の *Gründe* や (21) の *Möglichkeiten* などの抽象的な名詞句に対する修飾詞となることも少なくない。その一方で、やはり (22) の「…であるような人々がたくさんいる」(*viele Leute, die...*) のような言い回しもしばしば定型的な表現として使われている。

(20) Dafür *gibt es* **viele** Gründe ...

“There are many reasons for that ...”

(21) *Es gibt* **viele** Möglichkeiten für ...

“There are a lot of ways for ...”

(22) *Es gibt* nicht **viele** Leute auf der Welt, die ...

“There are not so many people in the world, who ...”

以下の (23) のように、*außerdem* と共起する用例が多いことについては、*es gibt* が *auch* や *noch*、*neben* といった付加的な用法を持つ副詞・前置詞と一緒に用いられることからよく理解でき、それらの語とともに使用されるとき、*es gibt* は前文との強い関連性を示唆する構文となると言える。

(23) **Außerdem** *gibt es* hier überhaupt keine Assistenten.

“Moreover, there are no assistants here.”

## 2.2 コーパス調査 (2) : COSMAS II

つづいて、本節では、コーパス (COSMAS II) を用いて、テキスト種別による *es gibt* 構文について調査した。新聞 (Frankfurter Rundschau)、文学、20 世紀から 21 世紀にかけての講話やインタビューの三つのテキスト種別について、... *es + gibt* ... または ... *gibt + es* ... のそれぞれの語順での調査を試みた。

第一に、各テキストに共通する性質は、前節でも明らかになったように、noch、auch、immer といった副詞との共起が多いことである。Halliday and Hassan (1978: 244-246) では、英語の副詞 also を「付加的接続詞」(additive conjunction) に分類し、文と文をつなぐ結束を生む要素であるとみなす。同様に、ドイツ語の auch や noch にも、文同士を結束させる能力があり、(24) や (25) のような構文は、典型的な *es gibt* 構文の使用であると言える。

(24) Es läuft ganz gut, aber *es gibt auch* gewisse Probleme. (FRR)

“It goes very well, but there are also certain problems.”

(25) Die Zerstörung der Regenwälder nimmt den Ureinwohnern ihre Lebensräume. Schlimm genug. Aber *es gibt noch* andere Gründe, warum sie dringend geschützt werden müssen. (FRR)

“The devastation of the rain forests takes their habitats from natives. Terrible enough. But there are still other reasons why they have to be protected urgently.”

つぎに、数量詞 (Quantifier) も、*es gibt* の共起表現として頻出する。前節の CCDB での調査では、viel (もしくは viele) が多く見られたが、「二つの」(zwei) や「より多くの」(mehr)、「少ない」(wenig)、「十分な」(genug)、「ほとんどない」(kaum) などの相対的な数量を示す語も散見される。

(26) *Es gibt zwei* Sorten Mensch: solche, die zu Eishockeyspielen gehen. Und solche, die das einmal tun und dann nie wieder.

“There are two kinds of people: those who go to ice hockey games. And those who do it once and then never again.”

前節でも論じたように、Leute や Menschen などの集合的人間も対格名詞句として出現しやすい。(27) の「…であるような人々がいる」という表現は、限量的存在表現の典型的なものである。なぜなら、この表現全体で見た場合、実主語 Leute に対しては、指示が成立していないからである。それゆえ、(27) を (28) のような動詞文に書き換えるとすれば、非文となるか、少なくとも (27) の表現が備えている意味は保存されないかのどちらかである。すなわち「仕事と生活が同じものであると考えている人々がいる」ということと「人々が仕事と生活が同じものであると考えている」ということは、異なる意味を持っているということである。

(27) *Es gibt Leute*, die glauben, dass Arbeit und Leben identische Sachen sind. (BEL)

“There are people who believe that work and life are same things.”

(28) ?Leute glauben, dass Arbeit und Leben identische Sachen sind.

加えて、「理由」(Grund)、「事物」(Dinge)、「可能性」(Möglichkeit) といった抽象語との共起についても触れておかなければならない。久保田 (2017) が述べるように、日本語の存在表現、より詳細に言えば「出来事発生文」の主語には、たとえば、(29) の「運動会」などの Grimshaw (1990: 59) が「単純事態名詞」(simple event nominals) と呼ぶもの、または、Glück (2010: 747) の「動詞的抽象語」(Verbalabstraktum)、つまり (30) の「連絡」のような語が出

現することが多い。

(29) (次の日曜日に) 小学校で運動会がある。(影山 2011: 40)

(30) ビザの発行について、大使館から連絡があった。(久保田 2017: 38)

ドイツ語でも同様に、(31) の「知らせ」(*Nachricht*) といった語が実主語に出現することがあるが、純粋な動詞的抽象語とみなせるのは、(32) の「雨」(*Regen*) を対格名詞句にとるような用例である。

(31) *Es gibt gute Nachrichten.*

“There are good news.”

(32) *Es gibt bald Regen.*

“There will be rain soon.”

コーパスで出現した用例について語順の違いを見ると、... *gibt + es ...* の語順の場合、*hier* や *dort*、*in Deutschland* (他にも *Frankfurt*、*Hessen* といった地名表現) などの場所的副詞句が前域に出やすいことがわかった<sup>5</sup>。英語と同様に、場所句が前域に移動する現象である「LOC 前置」は、ドイツ語でも観察できるということである。

また、コーパス調査で明らかになった興味深い事実は、否定詞の *nicht* が *gibt + es* の語順でのみ頻出するということである。その理由の一つに、*es + gibt* の語順の場合には新情報導入的存在表現となることが多いため、対格名詞句を新規に導入しようとするならば、基本的には肯定的な表現であることが求められるからであろうと推測される。*es gibt* 構文の語順については、いくつかのパターンがあり、次章でさらに詳しく議論することとする。

テキスト種別毎の性質を見てみると、他のテキスト中には頻出する *auch* が、文学作品にはあまり出現しないことが挙げられる。ジャーナリズム的テキストやインタビューなどで好まれる表現が文学作品でのみ使用頻度が少ないことから、文体的に好まれないことが推測できるが、この理由を決めるためにはさらなる考察が必要であろう。

### 3. *es gibt* 構文における語順

ここでは、さらに *es gibt* 存在表現内の語順について見ていきたい。はじめに、*es + gibt +* 対格名詞句 (実主語) の場合には、テキストの冒頭や話題転換の際に、新情報導入表現となる可能性が高い。先にも議論したが、つぎのような用例は、テキスト中での話題の転換点として用いられる *es gibt* 構文の使用である。

(33) *Es gibt einige positive Beispiele.*

“There are some positive examples.”

つぎに、場所的副詞句 + *gibt + es +* 対格名詞句 (実主語) の場合である。最上 (1987: 74) は、Kirkwood (1969) の語順に関する英語とドイツ語の比較研究を援用しつつ、英語の LOC 前置

構文と同じく、ドイツ語の存在表現でも、LOC + 動詞 + 主語（不定名詞句）が無標の言い方であると主張している。たとえば、最上（1987: 74）で扱われるのはつぎの用例である。

(34) Auf dem Tisch steht eine Vase.

“The vase stands on the table.”

*es gibt* 構文を含めた非人称構文に関して見てみると、奥野（2012: 162）によれば「(英語の) 場所句倒置 (locative inversion) 構文における前置詞句 (propositional phrase) は、話し手と聞き手の間で共通に了解されている話題を表すもの」である。Bolinger (1977) では「場所句倒置構文は、ある物を我々の眼前に提示する」と考える。そのため、存在表現の機能が物理的な指示物だけでなく、抽象的な主語指示物の提示であることを踏まえると、奥野（2012: 169）や Bolinger (1977) も主張するように、場所句倒置構文は、わたしたちの眼前や談話へ主語指示物を登場させる構文ということになる。それゆえ、場所句（もしくは、前置詞を伴う副詞句など）+ *gibt* + *es* + 対格名詞句の場合、前述の *es* + *gibt* + 対格名詞句の語順と同様に、新情報導入的存在表現や実在文となる可能性が高い。とはいえ、(35) のような倒置が生じている *es gibt* 構文の解釈に際して重要であるのは、前域に出現する副詞句は、場所句であったとしても所在読みを導く要素ではなく、あくまでも実主語が導入される文脈を制限する要素であるということである。

(35) In Deutschland *gibt es* viele Brotsorten.

“There are many kinds of bread in Germany.”

さらに、Lakoff (1987: 546) では、*there* 構文の *there* の位置についての考察から、背景的要素、すなわち実体が生起する空間を示す語は、節の中で、前景的要素よりも先に出現しやすいことを指摘している。ドイツ語でも、たとえば、„Da ist eine Schlange!“ のような *da ist* 構文を用いた表現は、*there is* 構文の直示的使用と統語的にも類似しており、LOC が前置された表現は自然であると考えられる。

(36) Alle Wichtige *gibt's* auf der Post. (Die Post, Schweiz)

“All the important things are in the post office.”

最後に、(36) のように、対格名詞句 + *gibt* + *es* + 場所句（もしくは、その他の付加語か、付加語なし）の語順の場合、表現全体の意味としては、意味上の主語とそれに対する述定 (predication) の意味合いが強いと考えられる。それゆえ、実在文になる可能性が高い。その傾向は、(37) のように、定の名詞句が出現する際に顕著である。

(37) „*Es gibt* einen Sekretärinentag?“ „**Den gibt es**. Und du bist wirklich großzügig.“ (Suits, Yesterday's Gone, Filmuntertitel, 2014)

““There's a secretary's day?” “There is. And you're very generous.””



この語順の場合には、*es gibt* 構文だけでなく他の存在動詞であっても、主語と述定の関係が成立していると考えられる。

(38) Die Vase steht auf dem Tisch. (最上 1987: 71)

最上 (1987: 71) でも指摘されているように、情報構造の観点から見て、(38) のような表現は、典型的にテーマ・レーマ構造を持ち、主語の定名詞句を主題として、その主語に対して述語によって説明を与えるものである。

#### 4. まとめ：コーパスにおける頻出共起語彙を伴う典型例

(39) から (41) のような数量詞や特定の集合を含む存在表現、すなわち限量的存在表現は、コーパス調査でも頻出表現として確認された<sup>5</sup>。

(39) Letztlich *gibt es* alle Filme auf DVD. (HAZ)

“In the end, there are all films on DVD.”

(40) Aber *es gibt* einige Dinge, die ich nicht verstehe.

“But there are a few things which I don’t understand.”

(41) *Es gibt* Menschen, die z.B. gegen Milch und Milchprodukte allergisch reagieren. (MM 27.05.1988)

つづいて、(42) や (43) といった否定詞 (nichts, nicht, kein, etc.) と共起する用例、否定的存在表現もしばしば確認できた。

(42) *Es gibt* keine Ausreden mehr. (HAZ)

“There are no more excuses.”

(43) Auf Wiedersehen. *Es gibt* nichts zu sagen. (HAZ)

“See you again. There is nothing to say.”

最後に、どの種別でも頻出共起語彙であったのは、auch, immer, noch, sonst といったリマインダー的な副詞句である。Sweetser (1990: 96) によると、英語の *there is* 構文と *always* の共起表現、“there’s always” には「慣習的な提案の力」がある。ドイツ語でも、存在構文と *immer* (*Eng. always*) の相性の良さは、コーパス調査からも確認できた。

(44) *Es gibt* immer einen Grund.

“There is always a reason.”

このように、コーパス調査に基づいて、*es gibt* 構文の頻出共起語彙を観察すると、実際のテキストの言語使用の場では、限量的存在表現やリマインダー的表現、未来的存在表現としての *es gibt* の使用が多いということが明らかになった<sup>6</sup>。*es gibt* の用法については、しばしば実在的

性質を強調されることが多いけれども、いわゆる典型的な実在文（たとえば、*es gibt einen Gott* 「神は存在する」や *es gibt einen Weihnachtsmann* 「サンタクロースは存在する」のように、実主語の存在の可否に焦点を絞った表現）は頻度別に見るとほとんど出現しない。実際のテキストでは、本構文はむしろ、会話的性質を強く帯びた表現としてコミュニケーション的に使用されていることがうかがえる。

また、テキスト種別間の頻出共起語彙を比較してみると、今回の調査では、語彙の使用頻度には大きな差異は見られなかった。書きことば性が高いと考えられるジャーナリズム的テキストや文学作品中でも、講話やインタビューと同様に、*ja* や *auch*、*noch* といった話法詞、*da*、*hier*、*dort* などの直示詞が出現するため、テキストの話しことば性を高めると思われる語彙ともしばしば共起することがわかった。

## 註

- 1 本稿での研究成果の一部は、JSPS 科研費 JP18H00664 の助成を受けたものである。
- 2 このデータバンクは、Deutsche Referenzkopos (DEREKO) の一部を基礎にしており、約 22 万語の見出し語がある。
- 3 CCDB 全体での *geben* の出現数は、233,254 例である。
- 4 ある集合内の特定の要素の有無を指定する存在表現を、金水 (2006: 24) では「限量的存在表現」（金水の用語では「限量的存在文」と呼んでいる）。
- 5 Betz (2006: 88-89) では、*hier* や *dort* などの場所的直示詞 (Ortsdeixis) や *jetzt* などの時間的直示詞 (Zeitdeixis) が新聞での話しことば性を高める要素であることを指摘している。
- 6 Lakoff (1987) や Sweetser (1990) では、聞き手に何かを思い出させる表現を「リマインダー表現」と呼んでいる。

## 参考文献

- Betz, R. (2006): *Gesprochensprachliche Elemente in deutschen Zeitungen*. Radolfzell, Verlag für Gesprächsforschung.
- Bolinger, D. (1977): *Meaning and Form*. New York, Longmans.
- Daigi, Y. (2015): Existenzkonstruktion als Sprechakt – Akzeptabilität der *es gibt*-Konstruktion. Germanistik Kyoto. Kyoto, Germanistenverband Kyoto, S. 79-96.
- Glück, H. (2010): *Metzler Lexikon Sprache. 4., aktualisierte und überarbeitete Auflage*. Stuttgart; Weimar, Metzler.
- Grimshaw, J. (1990): *Argument structure*. Cambridge, MA, MIT Press.
- Halliday, M. A. K. & Hasan, R. (1976): *Cohesion in English*. London, Longman.
- 井口靖 (2000): 『副詞〈ドイツ語文法シリーズ〉5』大学書林。
- 影山太郎 (2011): 『名詞の意味と構文』大修館書店。
- 久保田一充 (2017): 「出来事の発生を表す「～がある」文」言語研究 151, 37-62.
- Lakoff, G. (1987): *Women, Fire, and Dangerous Things What Categories Reveal about the Mind*. Chicago; London, The University of Chicago Press.
- Meibauer, J., Demske, U., Geilfuß-Wolfgang, J., Pafel, J., Ramers, K., Rothweiler, M. & Steinbach, M. (2015): *Einführung in die germanistische Linguistik*. Stuttgart / Weimar, Metzler Verlag.
- 最上英明 (1987): 「ドイツ語の存在文をめぐる」北海道大学独語独文学科研究年報 13, 71-86.
- 奥野忠徳 (2012): 「場所句倒置構文をめぐる」『ひつじ意味論講座 第二巻 構文と意味』ひつじ書房。

Pfenninger, S. E. (2009): *Grammaticalization Paths of English and High German Existential Constructions: A Corpus-based study*; Bern/Berlin, Peter Lang.

Sweetser, E. (1990): *From Etymology to Pragmatics, Metaphorical and Cultural Aspect of Semantic Structure*. Cambridge, Cambridge University Press.

## コーパス

COSMAS II, IDS-Mannheim. URL: <https://cosmas2.ids-mannheim.de/cosmas2-web/>

Digitale Wörterbuch der deutschen Sprache (DWDS), Berlin-Brandenburgischen Akademie der Wissenschaften. URL: <https://www.dwds.de/d/korpora>

Kookkurrenzdatenbank (CCDB), IDS-Mannheim. URL: <http://corpora.ids-mannheim.de/ccdb/>